かわらばん

中学生制作の観光マップが来町の心をくすぐる

ポロトミンタラにある白老観光の情報発信拠点・観光インフォメーションセンターは、PRイベントやSNS、パンフレット、ポスター、最新情報を告知する館内のおしゃれ掲示板など、さまざまな手法で白老をPRしています。そのパンフでも人気なのが、町内の中学１年生らが制作した観光マップだそうです。生徒自身による商店への取材や写真撮りを通し、定番の店舗やスポットを紹介しています。

人気の陰には観光協会職員の意識的なプッシュが…。鄭延雪さん（町地域おこし協力隊）は「せっかく中学生が作ったんだからぜひ紹介したい」と、希望に沿い郵送するパンフレット類の中や来館者のリクエストに、必ず同マップを差し込んでいます。「えー、中学生が作ったの?！すごいね」と俄然、好反応を示すそうです。「これを見て観光に訪れたり、掲載場所に満足しましたという感想がうれしいですね」と笑顔で話しています。

町青少年育成町民の会
「お願いします『子どもたちが“生きる力を養う”環境づくり』を」

同会（町内会・育成機関・団体・企業など178団体で組織）は３月27日、子どもたちがコミュニケーション力や社会性、体力、学習意欲の向上につながるスポーツ、体験活動に取り組める環境づくりを求める要望書を、大塩英男町長に提出しました。

児童生徒の減少に伴い、子どもたちを取り巻くスポーツ施設や放課後の環境が大きく様変わりしている－とし同会は、一昨年は白老地区、昨年は萩野、竹浦、虎杖浜地区に出向き、普段から子どもたちと関わりを持つ町民の意見交換の場（「話さる会」）を設け、結果を要望書にまとめました。

要望書は「町内スポーツ施設の利便性向上」「町内スポーツ施設における指導体制の充実」「地域人材を活用した部活動の充実」「学校を核とした地域づくりを目指す『地域学校協働活動』の積極的な推進」の４項目。山田和子会長、吉村智副会長（町内会連合会会長）、星野博美さん（萩野小PTA会長）が訪れ、大塩町長、安藤尚志教育長に趣旨を説明、要望しました。大塩町長は「私も子どもはまちの宝と思っています。子どもを地域で守り育てる取り組みを着実に進めたい」と話していました。

知っておこう アイヌ文化

カリンパニ

イランカラプテ。サクラの花が満開になる時期を迎えました。町内の至る所で咲き誇るサクラに、心が和むものです。ところで、美しいサクラをアイヌ民族は何と呼んでいたのだろう？と疑問を持つ方も多いのではないでしょうか。知里真志保の『分類アイヌ語辞典　植物編』で、北海道の一般的なサクラであるエゾヤマザクラを調べてみると、カリンパニやカルンパニなどと記載されています。カリンパニは、カリンパ＝サクラの樹皮、ニ＝木という語源が由来であり、サクラといえば花を思い浮かべる一方で、樹皮が語源というのは不思議に思われるかもしれません。実は、アイヌ語の植物名の多くは、人間の暮らしに欠かせない部位の名称が由来になっているといいます。では、アイヌ民族はカリンパをどのように利用するのかというと、小刀や山刀の鞘、矢筒といった２枚に割った木を貼り合わせて作られる道具に巻き付けることで、剥がれないようにするため、また、カリンパウンクと呼ばれる弓に巻きつけることで、折れることのない強度を保つ、補強としての役割に用います。こうした生活を支える重要な道具に使用されるカリンパは、アイヌ民族にとって、サクラの花より大切であることがわかります。

チキサニでは、体験交流事業などでの活用を目的に、ポロト休養林や森野地区でカリンパニを育成している

政策推進課　アイヌ政策推進室　学芸員　森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎８２－６３０１